

国際交流センター

NEWSLETTER

Sep. 2018 Vol. 52

交換留学生(派遣)からのメッセージ

交換留学生として海外協定校へ留学していた学生達が帰国し、感想を寄せてくれました。
あなたも交換留学に挑戦してみませんか？



留学で得た3つの「出会い」

文学部人文社会学科 3回生 馬場夏子

派遣先：ノースカロライナ大学グリーンズボロ校（アメリカ）

私は2回生の8月から10ヶ月間、ノースカロライナ大学に留学しました。漠然とした憧れから、「大学では絶対にアメリカへ留学する」と意気込み入学しましたが、入学直後アメリカへの留学枠が1枠だと知り、絶望しました。そして「専門性を身につけた上回生には、1回生の自分は面接で敵わない」、「TOEFLの点数も足りていない」と落ち込みました。しかし長年の目標であった交換留学を諦めることの方が後々辛くなると思い、1回生の頃はTOEFLの試験に5回挑むなど、とにかく留学できるよう努力しました。留学が決めた時には、それまで感じたことのない達成感と安心感を感じたのを覚えています。



友達と雪合戦(1月)

出発当日は、これからアメリカへ行くのか実感が湧かぬまま空港へ向かいました。アメリカに到着し、ようやく実感が湧いた頃には、台湾人の友達ができました。彼との出会いから始まった私の留学生活は、本当に数多くの出会いに溢れていました。いくつかの「出会い」をここで紹介させていただきます。

まずは「人との出会い」です。留学中は世界中に友達を作ること为目标にし、日本にいた時以上に外に向き、積極的に話しかけました。寮の庭で出会い親友となった友人、旅先で出会い、日本の良さをひたすら語ってくれたタクシー運転手、喧嘩をしたルームメイトなど沢山の人々との出会いは、それまでの堅苦しい

自分の考え方を柔軟にしてくれました。また、多様な価値観・考え方を学ぶ大きなきっかけにもなりました。

次は、「興味との出会い」です。私はPeace and Conflict Studies専攻でしたが、興味ある分野の授業は専攻に限らず、履修しました。コミュニケーション学、地理学、国際学、航空マネジメント学など様々な分野の授業を通して、自分が本当に興味ある分野を知ることができました。将来の目標を留学中に少し明確にできたことは、今の自分の為になっているように感じます。

最後は、「自分との出会い」です。留学は限られた時間でありながら、自己成長のきっかけとなるようなチャンスで溢れています。私もチャンスを逃さぬよう、何をすべきなのか、何をしなければならないのかを常に考え、行動しました。自分が足りない部分、弱さをそこで改めて見直したことで、一歩成長した自分にも出会うことが出来ました。

以上の出会いは1回生の時に諦めなかったからこそ、得られた結果です。この文章を読んでくださっている皆様にも留学を通して、沢山の出会いを経験して頂きたいと思っております。

Inside This Issue



交換留学生(派遣)からの
メッセージ



留学生のための
就活ガイド



サマープログラム
「MAHOROBA」万葉



センターおよび国際課の活動
センタースタッフ紹介

チャレンジすることで世界が変わる

文学部人間科学科 4回生 鳥内真悠
派遣先：リンカーン大学（ニュージーランド）

私は2017年7月から2018年の6月までの1年間、ニュージーランドにあるリンカーン大学に留学しました。私にとってこの1年間は本当に濃くて、たくさん悩み、葛藤しながら大きく成長できた時間でした。留学前の自分と今の自分を比べてみると、かなり変わったなと思います。なぜ変わったのか、それはこの1年、本当に多くのことにチャレンジすることができたからです。



振り返ってみると最初の数か月は本当にしんどいことが多かったと思います。ニュージーランド英語はアメリカ英語よりも訛りが強く、その上会話のスピードも速くて、始めの頃は先生が話していることも何となくしか理解できず、ディスカッションをしても、そもそもテーマもよく分からず、とにかくその時間をやり過ごすことに全力を注いでいました。他国からの交換留学生はみんな英語が堪能で、“自分だけができない”ことへの焦りや不安で押し潰されそうになっていました。そんな状況を脱却できたのは、多くの人たちが助けてくれたからです。最初は金髪ポニーテール



友人と

で冬なのにショートパンツで怖いと思っていたクラスメートも、自分から心を開いて関わってみるといい人たちばかりで、たくさん助けてくれました。“できない”ことも“やってみる”精神で、授業に積極的に参加することを目標に取り組んだ結果、後半のセメスターでは、15分のプレゼンテーションのリーダーを務めるまでに成長できました。プレゼンが終わった時に、話したことがなかった現地の学生に“よかったよ”と声をかけてもらった時は本当に嬉しかったです。

私はこの1年間、とにかく“やってみる”精神を大切にしてきました。この1年間で挑戦したことを挙げると、ベビーシッター、ドッグシッター、アルバイト、バンジージャンプなど、振り返ってみてもよくやっていたと思う事ばかりです。私は先住民であるマオリ族の研究をしていたので、マオリ族の方に自分でインタビューをしたりもしました。自分から積極的に動くことで、世界はどんどん開けていくし、“できない”と思っていたことでもやってみたら案外なんとかなるということも、身をもって実感しました。言語の壁や文化の壁など、これまでぶつかったことのない壁に何度もぶつかりながら、悩んだ分、苦しんだ分、本当に強くなれました。ニュージーランドで過ごした時間や出会った人々は、私の人生に大きな影響を与えてくれました。またいつかもっと成長して、自分の夢に近づいて、胸を張ってニュージーランドに戻れるように、これからも“やってみる”精神を大切に頑張ります。

全てが学びとなった留学生活

理学部化学生物環境学科 4回生 松田茉初
派遣先：リンカーン大学（ニュージーランド）

私は2017年7月から2018年6月までの一年間、ニュージーランドの南島にあるリンカーン大学に留学しました。留学先での寮生活は日本のように一人暮らしではなく、4人で一つの家に住むシェアハウス型でした。買い物や料理を一緒にしたり、休日にはみんなで出かけたり家で映画を見たり、多くの時間を共に過ごしたフラットメイト（寮仲間）はかけがえのない存在となり、また、自分にとって安心できる場所になりました。そして、そんなフラットメイトや友達から、私はとても大切なことを学びました。それは、“自分の人生なのだからやりたいことがあるなら挑戦してみる”ということです。今まで、何かを始めようとしたとき、今からだと遅いとか、もう少し早くにこの道を選んでおけば、、、と思いとどまってしまったことはありませんか？ 私は、まわりよりも遅れてしまうたった1年が怖くて決心できなかったことがありました。しかし、留学して様々な友達と話すうちに、自分を基準に生きていけば周りなんて関係なく、最終的には自分自身が満足できるのかもしれないと気づきました。ある人は、新たな目標を見つけたために仕事を辞めて学生に戻ったり、ある人は学位を取った後に異なる学位を取得するためにもう一度大学生になったり、他にもさまざまな人々に出会いました。初めから確固たる目標があれば寄り道はいらないかもしれませんが、私は、年齢にも何事にもとらわれず、自分を持っている生き方に衝撃を受け、人生に対する視野が広がったように思います。

もう一つ、留学中の経験を通して私が大切だと思ったことは、積極的になることです。異国の地に行って積極的に行動するには勇気がいる時もありますが、成長するための大きな一歩になったと思います。例えば、授

業中に発言することやグループワーク中に発言する機会がありましたが、最初は当てられない限りできるだけ目立たないようにしたいと思っていました。しかしその義務感で発言をしているうちに、先生やクラスメイトは意見を尊重してくれること、興味を持ってくれることに気づきました。人前で発言が得意になったわけではないのですが、あの時出来たことが自信となり、プラスに働くようになったことは確信しています。また、日常生活でも積極的になることの重要性を感じました。留学生活を楽しむ上で私にとって大切だったのは友達でした。自分から積極的になることで色んなところで友達を作ることができ、充実した生活を送ることが出来たと思います。

1年間の留学で、新しい生活、新しい人々、新しい考え方など、色々な新しいことに会うことができました。そして、それらの全てがかけがえのないもの、新しい学びとなって私の中に残っています。留学から帰ってきて半年以上が過ぎましたが、いまだに留学中のことを思い出す日が少なくありません。一生思い出を大切にしていきたいと思える貴重な経験をする事ができ、留学に関わってくくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。



Queenstownにて

飛び込む力



理学部化学生物環境学科 4回生 藪田美玖
派遣先：レスター大学（イギリス）

2017年秋から2018年夏までの約1年間、イギリスのレスター大学に留学しました。ちょうど昨年のはじめは、スコアが伸び悩むIELTSと格闘しながら留学の準備を少しずつ始めていました。終わってしまえばあつという間の1年間でしたが、イギリスでの経験が今の自分に大きく影響していることを日々実感しています。留学がわたしに与えてくれたものは何だったのか。この体験記を通して、私なりに思う「留学の魅力」をお伝えできればと思います。



スコットランド最大のLGBT
Pride Edinburgh

留学でまず身に付いたのは、「飛び込む力」でした。不思議なもので、見知らぬ土地に一旦出てみると新しいものに飛び込んでいくエネルギーがどこからか湧いてきました。特に留学初期は、全てをイチからスタートしなければならなかったため、とにかくイベントごとには片っ端から足を運びました。言ってみれば良い意味での「留学ハイ状態」だったのかもしれませんが。学内ではソサエティの立ち上げメンバーに加わってみたり、日本語クラスでチューターとしてお手伝いをしてみたりもしました。学外では、国立公園でのボランティア活動や、デモやLGBTパレードへの参加も刺激的でした。こうしたアクションを通して、留学を充実させるのは他の誰でもない自分なんだと実感

していきました。加えて、普段なら足踏みをしてしまいがちな私からエネルギーを引き出してくれたのは、やはり周囲の友人だったように思います。世界各国からやってくる学生達は、それぞれに自分の軸をしっかりと持ちアクティブに生活していました。私もやってみよう！と手を挙げれば、皆喜んでグイグイ誘い入れてくれました。そのウェルカムな空気が、わたしの飛び込む力を育ててくれました。

また、日本を離れて海外に暮らしてみると、現地の習慣や文化、生活スタイルその全てが目新しく映ります。日本と比較してみる中で生まれる一つ一つの気づきが、自分の中で消化され学びに変わっていく日々でした。例えば、ある時大学での講義中にふと、学生の多くが机の上に水の入ったマイボトルを置いていることに気が付きました。マイボトルを講義に持ってきているイギリスの学生を見て、単純になんだかかっこいい、と感化されたわたしは、すぐにウォーターボトルを購入しました。そうしてマイボトル生活を初めてみると、キャンパス内にたくさんの給水機が設置してあることや、カフェには必ずと言っていいほど「タンブラー持参でディスカウント」と書いてあることに気が付き、だんだんとペットボトル飲料を買わない生活へと変わっていきました。この習慣は、帰国後も続いています。環境保全への意識が高いヨーロッパ諸国から学んだことは、海洋汚染の深刻化を受けてプラスチックフリーの生活に変えていこうという世界の潮流でした。日本を出てこのトレンドを肌で感じる事ができたのは、わたしの留学の大きな収穫です。

留学は、なによりタイミングが命です。留学という選択肢があり、目の前にチャンスがやってきているのなら、ぜひぜひそれを掴みに飛び込んでみてください。必ず、かけがえのない経験になります。

留学生のための就活ガイダンス

7月11日(水)、学生生活課就職係との共催で、「留学生のための就職活動スタートアップガイダンス」が開催され、16名の留学生が参加しました。最初に学生生活課就職係を訪れ、就職に関してどのようなサポートを受けることができるのか教えてもらいました。その後、留学ルームに移動し、株式会社アイテムの大原氏より、日本での就職活動の特徴やエントリーシートの書き方などについて話を聞きました。参加した学生は、今まで知らなかったことを知る機会を得て、今後の課題や自分が具体的に知りたいことなども改めて確認できたようです。



サマープログラム「MAHOROBA」・「万葉」



サマープログラム「MAHOROBA」が7月8日～18日、「万葉」は7月27日～8月8日の日程で開催されました。「MAHOROBA」には8カ国18名、「万葉」には7カ国12名の留学生が参加。フィールドトリップでならまちや興福寺、川上村を訪れたり、奈良についての講義を受けたり、書道体験や奈良女子大学の学生との交流など、内容の濃い時間を過ごすことができたようです。日本の文化に触れ、たくさんの経験をしたことで、ますます日本について知ることができたのではないのでしょうか。

また、協定校からの留学生は、ホームステイも体験しました。各家庭で留学生を歓迎するために様々なことを計画し、準備していただけたので、最初は緊張していた留学生達も徐々に打ち解け、日本の家庭での生活を楽しめたようです。



センター及び国際課の活動

- 7/2(月) グローバル女性人材養成プログラム(ベトナム第2回)
(中国第3回)
(フィリピン第3回)合同説明会
- 7/8(日) サマープログラム「MAHOROBA」
～18(水)
- 7/11(水) グローバル女性人材養成プログラム(ベトナム)事前学修会
- 7/13(金) グローバル女性人材養成プログラム(ニュージーランド)
募集説明会・第1回説明会
- 7/27(金) サマープログラム「万葉」
～8/8(水)
- 7/31(火) グローバル女性人材養成プログラム(ベトナム)第3回説明会
- 8/6(月) グローバル女性人材養成プログラム(中国第4回)
(フィリピン第4回)合同説明会
- 8/8(水)～10(金) TOEFL対策講座
- 8/12(日) グローバル女性人材養成プログラム(フィリピン)出発
- 8/16(木) グローバル女性人材養成プログラム(ベトナム)出発
- 8/18(土) グローバル女性人材養成プログラム(中国)出発

新しいスタッフが増えました！

中川 知子
(事務補佐員)



奈良女子大学 国際交流センター

NEWSLETTER Vol.52 2018年9月発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町
TEL: 0742-20-3736
Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp